

令和7年春期写真展 展示構成(案)

戦後80年特別企画写真展

# 「石川光陽写真展 戦時下の東京」

会期:令和7年3月1日(土)~令和7年6月29日(日)

会場:昭和館 2階ひろば

後援:千代田区 千代田区教育委員会

## ごあいさつ

戦後 80 年特別企画写真展として、警視庁のカメラマンであった石川光陽の作品をご紹介します。

石川光陽(本名 石川武雄)は、明治 37 年(1904)福井県に生まれました。昭和 2 年(1927)に警視庁へ入庁し、退職するまで警察官の立場から昭和を記録しました。とりわけ戦中の空襲被害については、警視総監から特命を受けて記録したもので、戦争の悲惨さを現代に伝えています。また、東京に暮らす一市民として、何気ない日常を写真に収めています。

今回の写真展では、昭和館が所蔵する 9,600 点あまりの光陽の写真から厳選し、3 期にわけて展示いたします。

第 2 期は日中戦争が始まった昭和 12 年(1937)から、20 年 8 月 15 日終戦の頃までを展示いたします。

## 石川光陽略歴

明治 37 年(1904) 福井県に生まれる(父の仕事の都合で静岡県のち長野県へと転居)

大正 8 年(1919) 九段下の蜂谷写真館で修行を始める

大正 10 年(1921)頃 長野県松本市で父と共に写真館を始める

昭和 2 年(1927) 警視庁へ入庁、写真撮影担当となる(赤坂表町警察署(現・赤坂警察署)勤務)

昭和 6 年(1931) 警視庁本庁勤務

昭和 7 年(1932) 当時の警視総監であった藤沼庄平より「光陽」の名を受ける

昭和 20 年(1945)9 月 GHQ(連合軍最高司令官総司令部)から空襲被害を撮影したフィルムの提出を要求されるが、自宅の庭などに埋めて守り通す

昭和 38 年(1963) 警視庁を依願退職

昭和 63 年(1988) 戦前から昭和 30 年代までの作品をまとめた写真集『グラフィック・レポート 痛恨の昭和』を、岩波書店より著作出版

平成元年(1989) 逝去

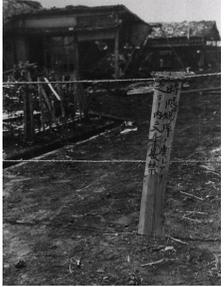


石川光陽

S1H0909003941	S1H0909001854	S1H0909000672	S1H0909004259	S1H0909006686
1. 撃墜模擬訓練	2. 出征兵士の見送り	3. 千人針の呼びかけ	4. 隅田川への煙幕	5. 浅草寺に初詣
				
撃墜模擬訓練は、敵機を撃墜した状況を想定し、それによって起きる火災の延焼を防止するための訓練であった。 空襲に備えるための防空訓練には、防火(消火)訓練、待避訓練、非常用炊出訓練などがあった。	昭和12年(1937)7月に日中戦争が始まると、多く兵士が必要となり、現役兵ではない男性たちに臨時召集令状(赤紙)が届くようになった。召集の日には、家族や近隣の人、愛国婦人会などが集まって盛大な壮行会が行われた。	千人針は出征兵士の無事を祈願し、女性が1枚の布に1針ずつ赤い糸玉を縫い付けた。「虎は千里を走り、千里を帰る」という言い伝えから寅の絵柄が好まれた。また寅年の女性だけは、年齢の数だけ縫えたとされた。	隅田川の川面が反射して、攻撃目標になることを想定した訓練。清洲橋上には軍や警察官などが、橋の下には船が集まり、号令を合図に一斉に発煙筒をたくと橋や川面は煙に包まれた。しかし風が吹くと煙は吹き飛ばされ、以後実施されなかった。	当時、赤坂に住んでいた光陽は、地下鉄で浅草まで行き、浅草寺に参詣してから、六区の映画街で洋画を見ていたという。 写真は浅草寺へ初詣した際の光陽の母と妻。
東京都中央区日本橋	東京都港区赤坂	東京都中央区銀座	東京都中央区日本橋中洲	東京都台東区浅草
昭和12年(1937)頃	昭和12年(1937)7月	昭和12年(1937)8月頃	昭和12年(1937)9月	昭和13年(1938)1月
石川光陽撮影	石川光陽撮影	石川光陽撮影	石川光陽撮影	石川光陽撮影
S1H0909002470	S1H0909003450	S1H0909009102	S1H0909001766	S1H0909000845
6. 豊島園で行われたロッパ運動会	7. 航空機の墜落事故現場	8. 東京駅で行われた消火訓練	9. 漢口陥落にわく銀座の街頭	10. 軍服を着た子ども
				
「ロッパ運動会」のアーチが立つ豊島園。ロッパ(古川緑波)の日記によると、この日は豊島園で一座の運動会を挙行し、ロッパ自身もアイスクリーム食い競走に参加したが、冷たく歯にしみるので吐き出してしまったと記している。	日本飛行学校と日本航空輸送の民間航空機が空中で接触して墜落し、多くの死傷者が出た。写真は日本飛行学校側の航空機が、墜落した現場。	昭和13年(1938)9月12日から16日の5日間、東北・関東甲信越の各府県では、防空訓練が行われた。東京では防護団体や市民による消火訓練や監視通信、警報伝達、灯火管制などが行われた。	漢口陥落を祝し、日の丸や垂れ幕で飾られた銀座の中央通り。正面の建物は百貨店の松屋。 大日本国防婦人会によるパレードや、市民による提灯行列、花電車も走るなど盛大に祝賀行事が行われた。	写真の子どもは光陽の長女。 光陽の義弟が陸軍の飛行戦隊に所属しており、遊びに来た際に制服を着せてもらって撮影したもの。
東京都豊島区向山	東京都大田区大森南	東京都千代田区丸の内	東京都中央区銀座	東京都目黒区八雲
昭和13年(1938)5月1日	昭和13年(1938)8月24日	昭和13年(1938)9月	昭和13年(1938)10月	昭和14年(1939)頃
石川光陽撮影	石川光陽撮影	石川光陽撮影	石川光陽撮影	石川光陽撮影

S1H0909003835	S1H0909003898	S1H0909005927	S1H0909004275	S1H0909000709
11. 隣組による炊出訓練	12. 産業戦士体育祭	13. 浅草六区でのバケツリレー	14. 和田倉門付近に設置された高射砲	15. 戦捷(せんしょう)祝賀の国民大会
				
防空訓練では、非常用炊出訓練も実施された。野外用の大きな炊事具の設置、調理、配布までを実際に訓練した。 隣組は部落会・町内会の下に5から10戸を単位とし、上意下達の組織として設置された。	明治神宮外苑競技場で行われた、第10回産業体育陸上競技会でのラート運動の競技。 ラート運動はドイツ発祥のスポーツで、戦中の日本では平衡感覚や体力の養成を目的として、航空操縦士の基礎訓練に導入されていた。	現在の六区ブロードウェイで行われた消火訓練。正面の千代田館に向かって放水やバケツリレーが行われている。	高射砲は上空にいる敵機を撃墜するために作られたもので、敵機から発見されないように、ネットで偽装されている。	昭和17年(1942)2月18日、日比谷公園で「戦捷第一次祝賀国民大会」が行われた。 シンガポール陥落を祝い、東条英機首相や日独伊三国同盟代表のオットー駐日ドイツ大使らが出席した。その後は戦況の悪化により、祝賀会は実施しなくなった。
東京都	東京都新宿区霞ヶ丘町	東京都台東区浅草	東京都千代田区皇居外苑	東京都千代田区日比谷公園
昭和15年(1940)9月	昭和16年(1941)9月	昭和16年(1941)10月	昭和17年(1942)頃	昭和17年(1942)2月18日
石川光陽撮影	石川光陽撮影	石川光陽撮影	石川光陽撮影	石川光陽撮影
S1H0909007625	S1H0909007655	S1H0909007678	S1H0909001930	S1H0909007690
16. 日本本土への初空襲被害	17. 隣組による消火訓練	18. 戦意高揚の掲示を見る人々	19. 山本五十六の葬列	20. 東京駅での待避訓練
				
昭和17年(1942)4月18日東京や横浜、神戸など大都市へ、B25による日本本土への初空襲(ドーリットル空襲)が行われた。尾久では爆弾投下により直径10m深さ3mの大穴があいて、近隣の一家6名が焼死した。	西巣鴨における隣組の消火訓練。ハシゴを使ってのバケツリレー。2階部分から伸びた紐は、空になったバケツを滑り下ろすためのもの。	荏原製作所に張り出された、生産増強を呼びかけた掲示を見る人々。掲示には、昭和18年(1943)4月18日に連合艦隊司令長官山本五十六が戦死したことなどが書かれている。	山本五十六は昭和18年(1943)4月18日、ブーゲンビル島上空で米軍機により、撃墜されて戦死した。5月21日大本営発表で国民に知らされ、6月5日には日比谷公園で国葬が執り行われた。	防空演習の一環として東京駅で行われた待避訓練。大きな防空演習の場合は前もって、新聞やラジオなどで予定の通知が出されていた。
東京都荒川区尾久	東京都豊島区西巣鴨	東京都大田区羽田旭町	東京都千代田区霞が関	東京都千代田区丸の内
昭和17年(1942)4月18日	昭和18年(1943)5月18日	昭和18年(1943)6月	昭和18年(1943)6月5日	昭和18年(1943)8月頃
石川光陽撮影	石川光陽撮影	石川光陽撮影	石川光陽撮影	石川光陽撮影

S1H0909003322	S1R0609138631	S1H0909007717	S1H0909007735	S1H0909007740
21. 買い出し先の農家の庭先で遊ぶ子ども	22. 出陣学徒壮行会	23. 初めての夜間空襲	24. 警視庁屋上に設置された防空監視哨	25. 爆風除けの土のうの積み上げ
				
戦中には食料品が不足がちになり、光陽は知人の紹介で酒々井の農家に買い出しに行き、米や野菜などを分けてもらったという。写真はその時に会った、ヤギと遊ぶ少女。	明治神宮外苑競技場で出陣学徒壮行会が行われた。学生に認められていた徴兵猶予の特権は、10月2日に廃止された。学徒兵は12月1日に陸軍へ入隊し、12月10日に海軍へ入団した。校正	昭和19年(1944)11月24日、B29による東京への本格的な空襲が始まった。11月29日から30日にかけて初めての夜間空襲があり、日本橋の室町や本町、茅場町などで焼夷弾による火災が発生した。	防空監視とはいち早く敵機を発見し、通報する任務で、防空監視隊員が24時間体制で警戒に当たっていた。警察官は防空監視隊員を兼務することができた。	警視庁本部庁舎の入口に積み上げられた土のう。空襲による被害を最小限にするために、建物の入口や窓などに土のうが積み上げられた。
千葉県印旛郡酒々井町	東京都新宿区霞ヶ丘町	東京都中央区日本橋室町	東京都千代田区霞が関	東京都千代田区霞が関
昭和18年(1943)	昭和18年(1943)10月21日	昭和19年(1944)11月30日	昭和19年(1944)12月頃	昭和19年(1944)12月頃
石川光陽撮影	石川光陽撮影	石川光陽撮影	石川光陽撮影	石川光陽撮影
S1H0909008158	S1H0909007753	S1H0909007783	S1H0909007818	S1H0909007870
26. 活躍する伝書鳩	27. 焼け出された人々	28. 空襲下の数寄屋橋付近	29. 都電の軌道上に開いた大穴	30. 大雪の神田錦町警察署
				
ハトは地磁気などにより方角を知る能力に優れ、帰巢本能があるとされている。遠隔地にハトを連れて行き、足輪に文書などを取り付けて放す事で、情報をいち早く伝える役割を担った。	昭和20年(1945)元旦の空襲で焼け出され、国民学校に避難した人々。大晦日の夜から元旦にかけて、B29は合計3回東京を空襲した。元佐久間町、末広町、栄町、浅草小島町、その他数ヶ所で火災が発生し、約600戸の家屋が焼失した。(別紙手記あり)	昭和20年(1945)1月27日の14時頃、複数のB29が銀座界隈を爆撃した。空襲直後の16時頃に晴海通りを撮影したもので、炎上する安田銀行数寄屋橋支店(現・みずほ銀行銀座支店)が写っている。	駒込動坂下の都電の軌道に、爆弾が直撃してできた大穴。昭和20年(1945)1月28日午後9時45分、B29が来襲して根津神社や駒込千駄木町、駒込林町などに空襲の被害があった。	昭和20年(1945)2月25日夜半から発令されていた警戒警報が、翌日午前7時過ぎにようやく解除された。この日は、雪晴れの素晴らしいお天気で、積雪は45cmほどであった。焼跡整理の応援にきた、警備隊員たちが歩いている。(別紙手記あり)
東京都千代田区有楽町	東京都千代田区外神田	東京都中央区銀座	東京都文京区	東京都千代田区神田錦町
昭和20年(1945)頃	昭和20年(1945)1月1日	昭和20年(1945)1月27日	昭和20年(1945)1月29日	昭和20年(1945)2月26日
石川光陽撮影	石川光陽撮影	石川光陽撮影	石川光陽撮影	石川光陽撮影

S1H0909007913	S1H2009039521	S1H0909007940	S1H0909007954	S1H0909007969
31. 焼け跡に出された警視庁の貼り紙	32. 焼けた浅草の東本願寺	33. 焼け落ちた九段南付近	34. 川中の遺体の収容作業	35. 建物の強制疎開(そかい)
				
昭和20年(1945)3月4日午前7時過ぎ、B29の編隊が進入し、多くの家屋が焼失した。駒込千駄木町の焼け跡に残された「罹災者ハ総源寺(赤門寺)ニ集合セラレタシ」と書かれた警視庁の貼り紙。總禅寺(総禅寺)の誤字と思われる。	昭和20年(1945)3月10日の東京大空襲では、現在の台東区、墨田区、江東区など東部地区の被害は甚大なものであった。浅草本願寺(現・東本願寺)では本堂内部が全焼したが、外郭は鉄筋コンクリートのため焼け残った。	昭和20年(1945)3月10日の東京大空襲の直後に撮影されたもの。九段坂上から九段下方面を写し、左方面に靖国神社がある。正面の焼け残っている建物は九段三業会の建物。	警察官や警防団員によって、菊川橋付近で遺体の引き上げが行われた。(別紙手記あり)	四谷第六次建物疎開の様子。昭和20年(1945)の春になると東京の大半は焼け野原になっていたが、重要建造物や住宅地を焼夷弾による延焼から守るため、建物疎開が実施された。
東京都文京区	東京都台東区西浅草	東京都千代田区九段南	東京都墨田区	東京都新宿区四谷
昭和20年(1945)3月4日	昭和20年(1945)3月10日	昭和20年(1945)3月11日	昭和20年(1945)3月16日	昭和20年(1945)3月31日
石川光陽撮影	石川光陽撮影	石川光陽撮影	石川光陽撮影	石川光陽撮影
S1H0909007978	S1H0909008126	S1H0909008131	S1H0909008200	S1H0909008211
36. 時限爆弾を危ぐした立入厳禁の立札	37. 墜落したB29の残骸	38. ドーム屋根が消失した東京駅	39. 燃えさかる国民学校の校舎	40. ひざまずく人々
				
昭和20年(1945)4月2日未明に東京西部を襲った空襲により、立川・武蔵野は大きな被害が出た。投下された爆弾には時限爆弾も含まれていたため、至る所で時間差による爆発があった。(別紙手記あり)	昭和20年(1945)5月25日から26日未明にかけて、夜間空襲があった。東京駅や皇居周辺も大きな被害を受けた。この空襲では米軍のB29が26機撃墜され、その内の1機が番町付近に墜落した。(別紙手記あり)	昭和20年(1945)5月25日から26日未明の空襲で、東京駅丸の内北口屋根に焼夷弾が直撃した。ドーム型になっていた3階部分の屋根が焼失した。	昭和20年(1945)8月10日午前9時45分頃、板橋区の志村地域に空襲があった。家屋は焼失倒壊し、多くの罹災者を出すこととなった。消火が間に合わず、志村第四国民学校(現・板橋区立志村第四小学校)の校舎も焼失した。	昭和20年(1945)8月15日正午、ラジオを通して「玉首放送」が流れ、人びとは戦争が終わり、日本が負けたことを知った。その翌日、宮城前広場(現・皇居前広場)ではひざまずく人びとの姿が見られた。(別紙手記あり)
東京都武蔵野市吉祥寺	東京都千代田区一番町	東京都千代田区丸の内	東京都板橋区小豆沢	東京都千代田区皇居外苑
昭和20年(1945)4月2日	昭和20年(1945)5月26日	昭和20年(1945)5月26日	昭和20年(1945)8月10日	昭和20年(1945)8月16日
石川光陽撮影	石川光陽撮影	石川光陽撮影	石川光陽撮影	石川光陽撮影

石川光陽「大東亜戦争と空襲日記」

石川光陽が記した、昭和20年1月1日から9月28日までの日記。警察官としての立場から知り得た空襲などの情報や、空襲被災現場での様子を記述している。

平成20年(2008)特別写真展「SHOWAの原風景－石川光陽が撮った昭和の町並み・空襲・世相」において石川光陽の次女石川令子さんより日記を借用し、『昭和のくらし研究 第7号』(平成21年3月)から『昭和のくらし研究 第10号』(平成24年3月)に全文翻刻を掲載した。現在は昭和館が所蔵している。

27

昭和二十年一月一日 曇

警務課に於て極めて簡単なる年賀の冷酒を汲んでから、カメラを持って昨夜来の被災地に自転車を飛ばした。

元旦早々凡てを灰燼に帰せしめられた罹災者の方々に対しては、全く同情の言葉もなく、一夜にして裸一貫となった人々は、最寄りの国民学校の教室に寄り添って、お互いの昨夜の模様を語り合っていた。

(151文字)

松尾公就「資料紹介 石川光陽筆『大東亜戦争と空襲日記』(1)』『昭和のくらし研究 第7号』(昭和館、2009年3月) p.105

30

二月二十六日 月曜日 晴

午前七時二十分警戒警報発令。同八時二十分解除。

朝食後昨日の空襲現場撮影に出かける。

雪晴れの素晴らしいお天気だが、積雪一尺五寸余あり、歩行極めて困難である。都電は勿論、省線も不通で、みんな西に東に歩いている。(中略)

昨日の災害地大手町に先ず出て錦町警察署に加地署長を訪れ、特別警備隊員の作業、罹災地の惨状等を撮影して上野広小路に出て、稲荷町、田原町を経て浅草雷門まで雪道を歩く、行程約三里余、軍隊当時の朝鮮雪中行軍を思い出した。(223文字)

松尾公就「資料紹介 石川光陽筆『大東亜戦争と空襲日記』(1)』『昭和のくらし研究 第7号』(昭和館、2009年3月) p.128

34

三月十六日 金曜日 曇

この撮影を終って次の地点、深川の菊川橋に至る。こゝでは汚れた川に浮ぶ無数の水死体を警察官と警防団によってニヶ所で引揚げられている。陸に上ったこれらの屍はトラックに載せられて何処にかどんどん運搬されていく。この数多い死体処理はいつ果てるとも判らない。(125文字)

松尾公就「資料紹介 石川光陽筆『大東亜戦争と空襲日記』(2)』『昭和のくらし研究 第8号』(昭和館、2010年3月) p.68～69

36

四月二日 月曜日 晴

後で知ったのだが午前二時警戒警報発令され、午前二時二十三分空襲警報発令され、マリアナ基地のB29約五十機は相模湾付近より主として帝都西部に来襲、一機又は二機で高度二千乃至一千を以て侵入、照明弾を投下すると共に、時限爆弾を投下、(中略)

午前六時出勤、朝食後篠田課長と車を飛ばして武蔵野に行く、その時再び警報発令され、B29一機亦帝都へ侵入。

武蔵野消防署に至り、状況を聴取した。消防署付近一帯爆弾の漏斗孔だらけで、また時々時限爆弾が処々で爆発している。(228文字)

松尾公就「資料紹介 石川光陽筆『大東亜戦争と空襲日記』(2)』『昭和のくらし研究 第8号』(昭和館、2010年3月) p.77

37

五月二十六日 土曜日 曇、小雨後晴

麹町町の警視庁官舎は総監官邸をはじめ、全部焼失、禰生神社も焼けて石の大鳥居だけが焼跡に立っている。麹町区役所、麹町警察署、その警察署裏にB29が撃墜されていて、その残骸を晒し、敵兵の死体七つ、性別も判らぬまでに焼け爛れて転っていた。その横に大きなタイヤが二つ印象的に投げ出されていた。(141文字)

松尾公就「資料紹介 石川光陽筆『大東亜戦争と空襲日記』(3)』『昭和のくらし研究 第9号』(昭和館、2011年3月) p.66～67

40

八月十六日 木曜日 晴

重い足をひきずり登庁、内務大臣の訓示、警務課長の訓示を受け、愈々天皇陛下の警察官としての重大なる責務を痛感する。

午後、宮城前に至れば焼けつく玉砂利の上に老いも若きも学生も土下座してひれ伏せ、慟哭しているを見て涙滂沱として流れる。(123文字)

松尾公就「資料紹介 石川光陽筆『大東亜戦争と空襲日記』(4)』『昭和のくらし研究 第10号』(昭和館、2012年3月) p.41